

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：北海道開発局地方整備課
担当課長名： 渋谷 元

事業名	市道 烈々布支線	事業区分	地方道	事業主体	札幌市
起終点	自：北海道札幌市東区栄町 至：北海道札幌市北区百合が原			延長	1.3 km
事業概要 市道烈々布支線は、東区丘珠地区から北区太平地区を通り、篠路地区を結ぶ幹線道路である。沿線には、百合が原公園や「つどーむ」、現在分譲中の住宅団地「グリンピアしのろ」があり、丘珠空港や地下鉄栄町駅等の交通結節点へのアクセス路としても重要な路線である。当該区間の北側及び南側の区間は既に整備を終えており当該区間も平成11年度に着手した。					
H11年度事業化		S48年度都市計画決定		H11年度用地着手	
H12年度工事着手					
全体事業費	30億円	事業進捗率	71%	供用済延長	0.5 km
計画交通量	14,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/ (事業全体)	総便益 (残事業)/ (事業全体)	基準年：平成20年	
	(残事業)	事業費：9.0/33億円 維持管理費：0.11/0.18億円	61/73億円 走行時間短縮便益：54/65億円 走行経費減少便益：0.60/0.83億円 交通事故減少便益：5.8/8.1億円		
感度分析の結果 ：残事業を対象 交通量変動：B/C=7.4 (交通量 +10%) B/C=6.0 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C=6.0 (事業費 +10%) B/C=7.4 (事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=6.5 (事業期間+20%) B/C=6.8 (事業期間-20%)					
事業の効果等 ・ 円滑なモビリティの確保（当該路線の整備により現道のバス路線の利便性向上） ・ 国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏の中心都市へのアクセス向上） 他2項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見 関係する地方公共団体等の意見は特になし。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成20年度の雪まつり会場として丘珠空港横の「つどーむ」が使われ、本路線整備の重要性が増している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成19年度までに烈々布新橋前後の区間及び百合が原公園から終点までの区間の合計約0.5 km区間の4車線及び歩道整備を終えており、残事業は約0.8 kmである。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 用地買収や埋蔵文化財調査に当初予定より時間を要したものの、今後は工事を着実に進めることができる見通しであり、平成22年度の完成が見込まれる。					
施設の構造や工法の変更等 資材の選定、工法の検討等について、積極的にコスト縮減に取り組み、事業を行っている。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図 					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。